

図書館通信

市貝町立図書館
〒321-3423
栃木県芳賀郡市貝町 市塙147
TEL 0285-68-4380
URL <http://www.library.ichikai.tochigi.jp/>

としょかんのひとりごと ブログはこちら

3月の催しもの

●図書館で一緒に遊びましょ 10:30~

土曜日は図書館でスタッフと一緒に遊ぼう

- ♥ 5日 しかけ絵本をひらいてみよう!
- ◆ 12日 いちごのケーキを作ろう♪
- ♣ 19日 春のブックカバーを作ろう!
- ♠ 26日 とべ! ittoくん!!

ツイッターでも
情報配信中!



市貝町立図書館『ittoくん』
@ittokun_ichikai

おいらのプロフィールだよ! みんな、よろしくね♡
誕生日は1月19日 お名前が決まった日!
1(いつ)・1(と)・9(くん) でおぼえてね~♪

図書館通信キャラクター ittoくんのプロフィール

ittoくん
サシバのこども(み)

♥誕生日 1月19日
♥住んでいるところ
市貝町立図書館

【趣味】

読書・おでかけ
ittoとファームでの
野菜作り
ツイッター

【好きな言葉】

晴耕雨読
健康第一、一石二鳥
笑う門には福きたる

【好きな食べ物】

ブルーベリー



【夢・目標】

市貝図書館を
北関東1番の
図書館にすること

【性格】

誰とでもすぐ
お友達になれる
好奇心旺盛
元気なお調子者
寒がりです暑がり
ヘビ・トカゲ
カエルは怖い

匠の技! 渋井氏 実演

歴史民俗資料館で開催されている、「市貝の無形文化財」で展示されている『箕』を県伝統工芸士の渋井収氏が実演してくれました。
おしゃべりしながら、スルスルと仕上げていくお手並みは「さすが!」の一言です。



図書館カレンダー

3月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

4月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

(■...休館日)

★おススメ新着DVD紹介★

落語ブーム到来！日本語がおもしろい！

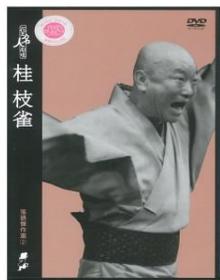


D522
立川談志



D524
三遊亭円楽

花王名人劇場
図書館に初登録
落語傑作選
落語DVD



D523
桂枝雀



D525
党首円楽×
家元談志

図書館からのお願い

いつも図書館の資料を大切に利用して下さっている皆様にスタッフ一同感謝しております。

図書館では、汚れや破損、書き込みがある本のバーコード付近にそれを記す標示をさせていただいております。

先日、返却にいらっしゃった利用者様から「この本は楽しめなかったね」と一言。書込み有りの標示をした本でしたが、間違いを探す本であったため既にチェック(書込み)が入った本を楽しめなかったのは当然です。本当に申し訳なく、残念に思います。



図書館の資料はみんなが平等に利用できるものですので、次に利用する人のことを考えて丁寧にお取り扱い頂ければありがたいです。(破損の程度によっては、弁償の対象となることがございます。)ご家族でも図書館資料の取扱いについて話す機会を設けてもいいかもしれませんね。利用のマナーを守って有意義な読書ライフをお楽しみください。

★スタッフのおすすめ小説★

チーム・バチスタの栄光
海堂尊 // 著
宝島社

数年前、映画化・ドラマ化されましたね。第4回「このミステリーがすごい！」大賞に輝いた本です。



バチスタという心臓の難手術を成功させてきたチームが、3例立て続けに術中死を発生させてしまう。医療過誤なのか？ 殺人なのか？



当時、現役のお医者様が書いたというだけあって、大学病院の内部事情や厚生労働省との関係なども興味深いところ。

でも、何といっても登場人物が皆個性があって面白い!!バチスタシリーズ以外の著作にも度々登場しますよ。覚えておくと、さらに楽しめる事まちがいなし!

館長のひとりごと



私と新聞は長～い付き合い方をしています。と言いますのも、町の出来事、社説・コラム、スポーツなどスクラップをして楽しんでいるからです。一番古い大学ノートは昭和43年4月起こりで表紙も色あせて懐かしさが込み上げてきます。「切り貼りしなくて、今はどんな情報でもインターネットからすぐに取り出せるじゃないの」と言う人もいますが、その言葉はずっと聞き流してきました。何かで壁にぶちあたった時などに、そっと開いては元気や勇気をたくさんもらったノート。20年前の新聞に『足元へいつ来たりしよ蝸牛《一茶》』たとえ地味であっても一步一步着実に歩むことは大切なこと…とのコラムが掲載されていました。あの頃は仕事に生活にと、焦っていた時期だったと思い出します。これからの残された人生、ゆっくりと焦らずに生きていこうと改めて肝に銘じ、色あせたスクラップ帳を静かに閉じました。